

京都教区時報

京都教区広報委員会
(編集長 村上透磨)

京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

2頁 ペトロ国本 静三神父 司祭叙階50周年 感謝ミサ

3頁 2017年 病者・高齢者訪問講座

第1回「聖書における病人のいやし」講師 一場 修師

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。

TEL・FAX 079-431-8601

宣教する教会

教会は、宣教する共同体です。宣教活動は、祈りから始まり、共同体で信仰を深め、そして社会の中で証しされるべきです。ここからの教会は人々を受け入れ、その中にイエスの姿を見出さねばなりません。福音を述べ伝えるだけでなく、人々を受け入れることも大切な宣教なのです。今回、このことを考えていただくため、先日の京丹ブロック大会で聞いた、京都聖カタリナ高校看護科2年の生徒のスピーチをご紹介します。

『私は信者ではありません。将来看護師になりたいくて、カトリックの高校に入学しました。そして、沢山の驚きがありました。一番驚いたことは、シスターが、本や映画の中だけでなく、本当にいらっしゃるということでした。私の学校のシスターはすごく優しく、お話しされる一言一言にいつも愛が感じられます。』

学校生活は、祈りで始まり祈りで終わります。聖歌を歌い、ミサが行われ、宗教の



授業があります。最初のころは「信者ではない自分が、どうしてこんなことをしなくてはいけないのだろうか?」とっていました。「なぜ、見たこともない神様を信じるのですか?」「神様が私たちに利益を与えて下さるんですか?」宗教とは、全く関わりのなかった私は、信者の方々と壁を作っていました。

9
2017

しかし、シスターや信者の方々と触れ合いの中で、少しずつ考え方が変わって行きました。学校での祈りやミサが当たり前になり、それがないと物足りなささえ感じ、神様を信じることで、気持ちを落ち着かせ、冷静に考えられるようになったのです。一年を通じて行われる授業や行事の中で、カトリックの教えの素晴らしさに気づきました。カトリックの教えは愛です。その愛によって、私も沢山の人の助けられ、そのおかげで今の自分がいると言っても過言ではありません。

信者の方々は私にとって、いつかはこうなりたいという憧れになりました。それは神様の教えだけではなく、シスターや信者の方々との関わりの中で、人の優しさに触れ合う場面があったからです。

私の夢は看護師になることなので、看護するにあたって、信者の方々のようになり、この学校で学んだことを通して、愛と感謝の気持ちを忘れず、人生を大切に過ごしていきたいと思います。』

京都教区広報委員会

担当司祭 アントニオ・カマチョ

祝 ペトロ 国本静三神父

司祭叙階50周年 感謝ミサ



1967年 7月 9日 司祭叙階

2017年 7月 9日 司祭叙階50周年

2017年
病者・高齢者訪問講座

第1回「聖書における病人のいやし」



講師 一場 修師
(マリスト会)

2017年度「病者・高齢者訪問講座」は、奉仕職養成を念頭におき、まず「奉仕職について」次に具体的な「奉仕の実践について」それぞれの理解を深める2回の講座で構成しています。第1回講座は、一場修師を講師に、「聖書における病人のいやし」というテーマで実施しました。

まず、一場師は「聖書におけるいやし」は「全人的」な視点で捉えられることを強調されました。「全人的」とは、人の身体的、精神的、霊的なあらゆる側面から捉えることを意味します。「全人的」ないやしの背後には、関わりの様々な役割やアプローチがあります。次に、一場師は、マルコ1章14節〜2



章12節、ルカ18章31節〜43節、使徒言行録3章1節〜10節の聖書の3つの箇所を読み、7つのポイントで聖書に描かれる「いやし」について説明されました。以下は、一場師の講話のまとめです。

① 神の国の訪れ、広がりであるいやし

教会が「病者・高齢者訪問」を大切にしているのは、「聖書」のいやしが「神の国の訪れ、広がり」を告げるものだからです。イエスのいやしの業は、身体的な病気が治る以上の意味をもたらし、いやされた人は、究極的には生きる意味が与えられ、人生そのものが広げられ、「全人的」に生きることができるようになりました。「神の国の訪れ、広がり」とは、そういうことなのです。

② 関係の回復であるいやし

「汚れた霊に取りつかれた人」は、イエスのいやしによって神との関わりを取り戻し、社会から排除されていた「重い

皮膚病の人」は、社会に帰るようになされました。イエスのいやしは、断絶されていた神と人、人と社会との関係を回復させました。

③ 共同体のいやし

イエスは、弟子たちと共に活動され、「中風の人」は、四人の男性によってイエスのもとに運ばれ、共同体の働きとして、いやしが実現しました。共同体は、個々のメンバーが、イエスと出会う助けをし、その喜びに共に与ります。つまり、共同体の一人のメンバーのいやしは、共同体全体のいやしにつながるのです。

④ 受肉としてのいやし

まことの神であるイエス・キリストは、人間になられ、人間としての限界を体験されましたが、人間になられたからこそ、出会う一人ひとりと丁寧に関わり、病人に寄り添い、手を取り、耳を傾けることができたのです。

⑤ 過越としてのいやし

イエスは、受難に向かわれる途上で盲人をいやされ、盲人は見えるようになることによって、イエスに従い、イエスの受難、十字架上の死、復活を目撃するこ

とになりました。「いやし」とは、苦しみや病気を、キリストの「超越」として受けとめ直し、神とのつながりを深めていくことです。

⑥喜びとしてのいやし

信仰によって、苦しみや病気に意味を見出すことができると、そこに真の「救い」があります。それは、十字架上のイエスと一致し、復活の希望に与るといふ深い喜びにつながります。

⑦秘跡としてのいやし

「イエス・キリスト」とは、「神は救われる」という意味です。その名によって施される秘跡は、イエスの死と復活に与るといふ救いの業です。

「病者・高齢者訪問」の奉仕は、聖書におけるイエスの「いやし」の延長線上にあります。私たちは、イエスのように、互いを「全人的に」大切にしようことを通して、福音を証しすることができます。イエス・キリストのいやしを「全人的な」視点で捉えるなら、「死」さえも「いやし」の完成として受けとめ直すことができると思います。

福音宣教企画室



2017年上半期活動報告

1月

晨星女子中学高等学校 来訪

ノートルダム女学院中学高等学校と姉妹校である済州教区の晨星(シンソン)女子中学高等学校の先生、生徒、総勢14名が1月2日～5日の間、京都を訪問。

お父さん学校 来訪

ホ神父様以下10名の「お父さん学校」の皆様が、1月5日～8日の間、京都を訪問。

ありがとう

夫神父様

1月17日に帰国されました。



夫神父様を囲んで

2月

ユスト高山右近列福式に参加

2月7日に行われた「ユスト高山右近列福式」に姜司教様と神父、信徒、総勢8名が参加。

こんにちは ホン神父様

2月末、ホン・ユンハク(洪潤學)神父様が京都教区に派遣。

3月

大塚乾隆師の司祭叙階式に参加

司祭叙階式に済州教区から8名が参加。

5月

「聖母の夜」行事への参加と聖地巡礼

5月18日～20日「聖母の夜」行事への参加と聖地巡礼に、チェ師、菅原師が団長で総勢17名が参加されました。参加者お二人の感想を紹介します。

彦根教会 川並洋子

今まで親の介護や自分自身の病気でほとんど旅行をしたことがない私を、彦根教会のご担当だった菅原神父様が、今回の巡礼に誘ってくださいました。

飛行機に乗るのも初めてで不安と期待

で一杯でした。でも飛行機もほとんど揺れることもなく快適でした。

幼児洗礼を受けながら今まであまりミサに与らなかつた私が、約三、〇〇〇人の信徒が参加された盛大なミサに参加でき、韓国の信徒の皆さんの信仰の深さにとっても感動しました。

日本の教会に比べて若い神父様、シスター、信徒が多いのにびっくりし、子どもの頃からの家庭での信仰教育が行き届いているのだなと思いました。

私にとって初めての海外旅行が聖地巡礼の旅であったのは、神様の思し召しに違いないと思っています。海外に行けるほどの健康な身体に下さったこと、今回の巡礼で信仰がまた深まったことを神様に感謝したいと思います。



登美が丘教会 中山 俊
十字架の道行きが、その場所の神聖な雰囲気、そして巡礼団の一致した心のおかげか、とても短い時のように思えました。

参加するたびに済州教区の姜司教様をはじめ、皆さまの暖かい歓迎に感謝でいっぱいです。どのようにしたら、その思いに応えられるかと、いつも考えさせられます。

また、今回ご一緒に行っていたいただいたチェ神父様、菅原神父様とお話ができ、お二人の熱い思いに触れ感動しました。巡礼に参加して、カトリック信者として少しずつでも成長していければと思っています。



明治村旧聖堂ミサ

6月

京都・済州姉妹教区交流月間

ナム神父様、キム神父様、来訪

6月16日〜20日まで、済州教区のナム・ステク神父様、キム・ソッスン神父様が来訪され6月17日、河原町教会の「新聖堂建立50周年記念明治村旧聖堂ミサ」、18日は、河原町教会にて「新聖堂建立50周年感謝ミサ」を大塚司教と共同司式で捧げて下さいました。

滞在中、伏見の「高山右近信仰の小道」や「キリシタン灯籠」の見学も楽しんでいただきました。

大塚司教の

9月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



- 2日⊕ 10:30 小教区評議会役員交流会
(河原町教会)
- 3日⊕ 11:00 (京都)洛東ブロック大会
(伏見教会)
- 4日⊕ 11:00 田中健一名誉司教 卒寿ミサ
(仁豊野ヴィラ)
- 5日⊕ 15:00 青少年委員会
- 6日⊕ 10:00 列聖推進委員会(SJハウス)
16:00 日本カトリック神学院
常任司教委員会
- 7日⊕ 10:00 中央協 常任司教委員会

- 10日⊕ 10:30 三重南部ブロック大会
(セントヨゼフ女子学園)
- 11日⊕-15日⊕ 男子カルメル修道会
黙想指導(宇治黙想の家)
- 17日⊕ 10:00 ユスト高山右近聖遺物 譲渡ミサ
(金沢教会)
- 19日⊕ 14:00 司教顧問会
- 20日⊕ 10:30 9月司祭・司牧者 集会
(河原町教会)
- 21日⊕-24日⊕ 福音宣教省長官フィローニ枢機卿
訪日関連
- 21日⊕ 16:00 フィローニ枢機卿と大阪管区
司祭修道者信徒懇話会
18:00 フィローニ枢機卿とミサ
(大阪玉造教会)
- 25日⊕-29日⊕ 2017年度 臨時司教総会
(中央協)

9月のお知らせ

教 区

聖書委員会/Tel.075(211)3484 ⊕⊕

聖書講座「聖書で祈る」

日 時：6日⊕ 19:00 7日⊕ 10:30
テーマ：聖書における右近の現代的意義
講 師：古巣 馨師(長崎教区)

日 時：20日⊕ 19:00 21日⊕ 10:30
テーマ：伝えるつとめ
講 師：阿部 仲麻呂師(サレジオ会)
会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

よく分かる聖書の学び

日 時：13日⊕ 10:30
講 師：北村 善朗師/参加費：300円
会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

信仰教育委員会

青年のための黙想会

日 時：10月7日⊕ 19:00～8日⊕ 16:00
講 師：北村 善朗師
会 場：望洋庵
対 象：青年男女/参加費：2,500円
申込要：Fax.075(211)4345
Eメール honbu@kyoto.catholic.jp
締 切：9月25日⊕

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

練 習：3日⊕ 14:00/23日⊕ 18:00 ミサ奉仕後
カトリック会館6階

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：14日⊕ 10:00/28日⊕ 10:00
カトリック会館6階

聴覚障がい者の会(どなたでも参加可)

黙想会

日 時：12日⊕ 10:00～14:00

指 導：菅原 友明師

場 所：高野教会

参加費：700円(昼食代)

申込要：Tel・Fax.075(723)1135 傳(つと)う 裕子

心のともしび 番組案内

テレビ(衛星スカパー・ケーブル)スカイA

毎週土曜日 朝7:45

シリーズ「私のキリスト道巡礼記」

出演は橋本 勲師(長崎教区)

ラジオ(KBS京都) ⊕～⊕ 朝5:55

⊕ 朝5:15

9月のテーマ「ぬくもり」

※ 11月号の原稿締切り日は9月27日⊕です。